郷土

創立30周年記念

第 6 号

新得町郷土研究会

目次

郷土の歴史を永遠に　新得町郷土研究会会長　安倍範夫　1
歴史の重みと伝えることの大切さ　新得町長　浜田正利　2
歴史を探り、未来に生きる町づくり　新得町教育委員会教育長　山本均　3

郷土の証言
町村知事を思う　金村優　4
十九歳の軍隊生活　斉木信道　5

私の郷土史
畑で拾った宝物　斉藤三男　7
家畜市場と柴内旅館　金村優　7
或る探検　記憶を辿って　片桐直　8
開拓者　祖父金助　斉木信道　9

郷土の記録
亜麻工場　奥山雅彦　10
石勝線建設の歴史　秋山秀敏　15
昭和三十五年頃の新得郵便局　奥山雅彦　28

郷土の資料
新得局区内事業所等一覧　33

昭和三十五年頃の市街地図　34

十勝文化団体協議会「文化賞」受賞　37

特集「創立三十周年記念」
年表「三十年の歩み」　39
創立三十周年に寄せて　大多優子／斉藤三男／片桐直／菊地幸一　66
思い出のアルバム　76
記念事業「新版ふるさとの伝承」刊行　69
「会誌」既刊号表紙・目次／その他の刊行物表紙・目次　70

会員名簿／歴代役員名簿／会則　72
編集後記　74

【表紙写真】

石碑『松浦武四郎野宿之地』

設置：昭和六十二年（一九八七）十月

位置：新得町字新内西六線一八五番地（一の沢）

函館奉行から東西蝦夷地山川地理取調の命を受けた幕末の探検家松浦武四郎は、安政五年（一八五八）六度目の蝦夷地入りをし、同年三月十三日（太陽暦の四月二十六日）に残雪きらめく狩勝国境を越え、新内の一の沢を下ってこの地に足を踏み入れた。和人としては初めての狩勝越えである。

同行者は石狩詰下役の飯田豊之助と案内のアイヌの人十人、函館を出発して五十日目、ときに武四郎四十歳であった。

武四郎が書いた当時の記録「戊午東西蝦夷山川地理取調日誌」によると、一の沢が合流する付近の佐幌川は川幅が七・八間（一間は約百八十チセンメートル）、平盤一枚岩で急流。左岸を行くにも切り立っていて進むことができずやむなく佐幌川を右岸に渡り、大笹原を三、四丁（一丁は百九メートル）分け入りてトドマツの多いこの地に野宿したとある。

（銘板「松浦武四郎野宿之地」より抜粋）